

PAT-NO: JP409086004A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09086004 A

TITLE: RECORDING APPARATUS AND DATA PROCESSOR

PUBN-DATE: March 31, 1997

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

ASAKURA, OSAMU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

CANON INC

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP07247589

APPL-DATE: September 26, 1995

INT-CL (IPC): B41J011/48, B41J013/00 , B41J013/10 , B41J015/04

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To miniaturize a recording apparatus capable of using a continuous recording sheet.

SOLUTION: A feed tray 3a is a tray having slip recording sheets stacked thereon. The guide passage of a continuous recording sheet (roll sheet) is provided to the rear surface of the feed tray 3a. A roll sheet 5b is supported on a roll sheet holder 3g in a revolvable manner and passed through the guide passage to be supplied to the sheet feed roller in front of a feed cassette 3. Since the guide passage is provided in parallel to the feed tray 3a, a recording apparatus can be miniaturized.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO

2005 0099954
Komaeda
6, 304342
CS: 18-60

5886866

~~5788186~~

10/788/86

10/788, 186

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-86004

(43)公開日 平成9年(1997)3月31日

(51)IntCl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 4 1 J	11/48		B 4 1 J	11/48
	13/00			13/00
	13/10			13/10
	15/04			15/04

審査請求 未請求 請求項の数9 O L (全 11 頁)

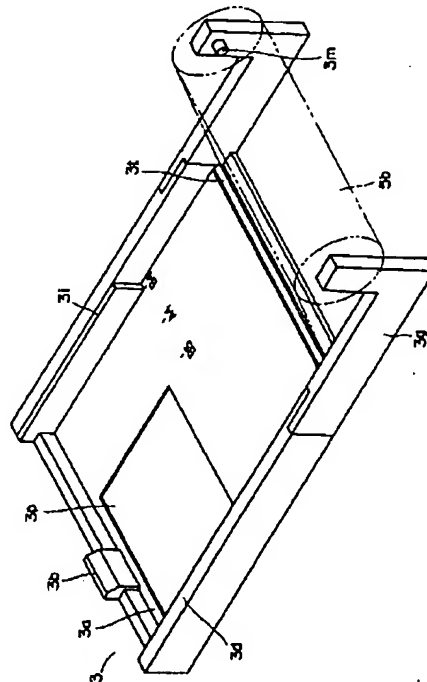
(21)出願番号	特願平7-247589	(71)出願人	000001007 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(22)出願日	平成7年(1995)9月26日	(72)発明者	朝倉 修 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ ノン株式会社内
		(74)代理人	弁理士 大塚 康徳 (外1名)

(54)【発明の名称】 記録装置及び情報処理装置

(57)【要約】

【課題】連続記録シートを使用可能な記録装置を小型化する。

【解決手段】給送トレイ3aは、単票記録シートを積載するトレイである。給送トレイ3aの下面には、連続記録シート（ロールシート）の案内通路3sが設けられている。ロールシート5bは、ロールシートホルダ3gに回動可能に軸支され、案内通路3sを通して、給送カセット3の先のシート送りローラに供給される。案内通路3sは、給送トレイ3aと平行して設けられているため、記録装置を小型化することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 記録シートに画像を記録する記録装置であって、
単票記録シートを載置する給送トレイを有する単票記録シート給送手段と、
前記給送トレイの載置面と平行して連続記録シートを案内する案内通路を有する連続記録シート給送手段と、
を備えることを特徴とする記録装置。

【請求項2】 前記連続記録シート給送手段は、前記連続記録シートを保持する保持手段を有することを特徴とする請求項1に記載の記録装置。

【請求項3】 前記保持手段は、ロール状記録シートのロールを前記給送トレイの前方に回動可能に保持することを特徴とする請求項2に記載の記録装置。

【請求項4】 前記保持手段は、着脱可能であることを特徴とする請求項3に記載の記録装置。

【請求項5】 前記案内通路は、前記給送トレイの下面に位置することを特徴とする請求項1乃至請求項4のいずれか1項に記載の記録装置。

【請求項6】 記録シートに画像を記録する記録装置であって、

記録シートを画像の記録部に給送する給送手段と、
単票記録シートを載置する給送トレイと、
前記供給トレイの前方にロール状記録シートのロールを回動可能に保持する保持手段と、
を備え、前記給送トレイを前記ロール状記録シートの供給経路とすることを特徴とする記録装置。

【請求項7】 前記保持手段は、着脱可能であることを特徴とする請求項6に記載の記録装置。

【請求項8】 前記保持手段は、前記給送トレイに収容可能であり、該給送トレイから突出して前記ロール状記録シートを保持することを特徴とする請求項6に記載の記録装置。

【請求項9】 請求項1乃至請求項8のいずれか1項に記載の記録装置を有する情報処理装置であって、
情報を入力するキーボードの下方に前記給送トレイを備えることを特徴とする情報処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、記録装置及び情報処理装置に係り、特に、記録シートに画像を記録する記録装置及びそれを備えた情報処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、各種情報処理装置に接続して使用される記録装置や、ワードプロセッサ、パーソナルコンピュータ等に搭載された記録装置において、記録量の増大や記録処理の高速化の要求に伴い記録紙の自動給送装置の必要性がクローズアップされてきている。

【0003】自動給送装置は、記録装置の記録紙挿入口部に複数枚の記録紙を搭載可能にした給送トレイまたは

着脱可能な給送トレイ（給送カセット）と、給送機構部とからなる装置が一般的である。

【0004】記録紙のサイズの選択の方式には、記録装置において使用可能な最大の記録紙サイズを積載可能な給送トレイまたは給送カセットを設け、適宜所望のサイズの記録紙をセットする方式や、使用する記録紙サイズによって最適サイズの給送トレイまたは給送カセットに交換する方式がある。

【0005】また、大量の情報を記録する場合や垂れ幕印刷を行う場合には、ロール状又はファンフォールド状の連続記録シートを用いる必要がある。この場合、前述のような単票記録シートの給送トレイの給送通路を用いて連続記録シートの給送を行うことは困難であるため、連続記録シートの給送通路を上記給送トレイの給送通路と異なる方向に設ける必要があった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来例においては、多様なサイズの記録紙に対応する必要性から記録装置が大型化し、また、ロール状またはファンフォールド状の記録紙に対応する必要性から記録装置は一層大型化してきた。

【0007】本発明は上記の問題点に鑑みてなされたものであり、連続記録シートを使用可能な記録装置を小型化することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため、本発明に係る記録装置は、記録シートに画像を記録する記録装置であって、単票記録シートを載置する給送トレイを有する単票記録シート給送手段と、前記給送トレイの載置面と平行して連続記録シートを案内する案内通路を有する連続記録シート給送手段とを備えることを特徴とする。

【0009】本発明の好適な実施態様に拠れば、例えば、前記連続記録シート給送手段は、前記連続記録シートを保持する保持手段を有する。

【0010】また、例えば、前記保持手段は、ロール状記録シートのロールを前記給送トレイの前方に回動可能に保持する。

【0011】また、例えば、前記保持手段は、着脱可能である。

【0012】また、例えば、前記案内通路は、前記給送トレイの下面に位置することを特徴とする。

【0013】また、本発明に係る記録装置は、記録シートに画像を記録する記録装置であって、記録シートを画像の記録部に給送する給送手段と、単票記録シートを載置する給送トレイと、前記供給トレイの前方にロール状記録シートのロールを回動可能に保持する保持手段とを備え、前記給送トレイを前記ロール状記録シートの供給経路とすることを特徴とする。

【0014】本発明の好適な実施態様に拠れば、例え

ば、前記保持手段は、着脱可能であることを特徴とする。

【0015】また、例えば、前記保持手段は、前記給送トレイに収容可能であり、該給送トレイから突出して前記ロール状記録シートを保持する。

【0016】また、本発明に係る情報処理装置は、請求項1乃至請求項8のいずれか1項に記載の記録装置を有する情報処理装置であって、情報を入力するキーボードの下方に前記給送トレイを備えることを特徴とする。

【0017】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照しながら本発明の実施の形態を説明する。

【0018】〔発明の第1の実施の形態〕図1は、本実施の形態に係る記録装置を内蔵した情報処理装置の一例であるワードプロセッサの外観斜視図である。同図において、1は、文書を入力したり、編集の指示や印刷の指示等を与えるキーボードである。2は、編集中文書や、印刷処理等に関する各種メニュー等を表示する液晶パネル等の表示部である。4は、記録シートに文字や図形等の画像を記録する記録装置である。3は、記録シートを記録装置4に供給する給送カセットである。5は、記録シートであり、給送トレイ3から記録装置4に給送された後、記録装置4において画像を記録され排出される（図示の状態）。

【0019】図2は、上記ワードプロセッサの断面図である。同図において、5aは、単票記録シートであり、給送カセット3の内部に積載されている。3pは、単票記録シート5aを給送ローラ4rに所定の押圧力で押し付けるプレシヤプレートである。給送カセット3の給送トレイ3a（図6参照）の下部にはロール状記録シート5bを送りローラ4rに案内する案内通路3sが設けられている。

【0020】4aは、インクジェット記録ヘッドであり、記録シート5（5aまたは5b）の送り方向（図面においては、右から左）と直交する方向（図面においては表から裏）に配置されたガイド軸4cにガイドされ往復移動するキャリッジ4bに装着されている。

【0021】4nは、記録ヘッド4a上の記録シート5に対向する面に、前述の送り方向に平行して1列に設けられた記録ノズルである。インクジェット記録ヘッド4aは、キャリッジ4bにより往復移動されながら、記録情報に応じて記録ノズル4nから液体インクを記録シート5に吐出することにより記録を行う。

【0022】4dは、記録シート送りローラであり、送りローラ4dに押圧されているピンチローラ4eと共働して給送トレイ3から給送ローラ4rにより挿入される記録シートを搬送する。

【0023】4fは、送りローラ4dと同期して略等しい周速で回転する排紙ローラであり、拍車ローラ4gと対をなして設けられ、記録ヘッド4aによって記録が行

われた記録シート5を排出口4jに向かって排出する。

【0024】6は、キーボード1からの入力に基づいて文書等を編集したり、オペレータの指示に従って編集した文書データ等から画像情報を生成したり、記録装置を駆動して画像を記録せしめる等、ワードプロセッサ全体の制御を司る制御部である。図3は、ワードプロセッサの構成例を示すブロック図である。制御部6は、ROM6bに格納された制御プログラムに基づいて動作するマイクロプロセッサ（MPU）6aによってワードプロセッサ全体を制御する。

【0025】制御部6において、6cは、MPU6aのワークメモリとして機能するRAM、6dは、所定の時間を計時するタイマである。6s、6e、6f、6gは、夫々給送モータ4s、インクジェットヘッド4a、キャリアモータ4k、シート送りモータ4lのドライバである。また、6h、6iは、夫々キーボード1、表示部2のコントローラである。

【0026】記録装置4は、給送モータ4s、インクジェットヘッド4a、キャリアモータ4k、シート送りモータ4l、シートセンサ4m、ホームポジションセンサ4h、温度センサ4p、湿度センサ4q等から構成されている。シートセンサ4m、ホームポジションセンサ4h、温度センサ4p、湿度センサ4qは、直接MPU6aに接続されている。

【0027】次に、印刷に関する動作例を説明する。本実施の形態においては、書式設定メニューと印刷メニューによって印刷に関する設定を行ない、印刷を行うことができる。

【0028】図4は、表示部2に書式設定メニューを表示した例を示す図である。この書式設定メニューは、通常の技術に基づき、例えばキーボード1によって書式設定の機能を選択することによって表示される。キーボード1を操作して「用紙サイズ」等の書式の設定が完了すると、表示部2は、文書編集画面となり、キーボード1を介して文書や図形等を入力し、それを編集・加工して画像情報を作成する。作成された画像情報はRAM6c上の所定の領域に記憶される。

【0029】作成した画像情報を記録シートに印刷する際は、印刷メニューを表示し所望の設定を施す。印刷メニューの表示は、キーボード1によって印刷の機能を選択することによって行うことができる。

【0030】図5は、表示部2に印刷メニューを表示した例を示す図である。印刷の指示は、キーボード1を操作して、例えば「印刷部数」等の印刷の機能の設定を行った後、例えば、キーボード1上に配された「印刷開始」キーを押すことによって行うことができる。

【0031】「印刷開始」キーが入力され、印刷が指示されると、制御部6のMPU6aはROM6bに格納された制御プログラムに従い、先ず給送モータ4sを駆動して給送ローラ4rを回転させ、記録シート5の先端が

送りローラ4 dに当たり、適度なループができるまで記録シート5を送り、その後駆動を停止する。

【0032】給送モータ4 sの停止後、送りローラ4 dを所定量回転させて記録シート5を初期セット位置にセットする。この際給送ローラ4 rは、ワンウェイクラッチを介して給送モータ4 sによって駆動されているため、送りローラ4 dによって送られる記録シート5により連れ回りする。

【0033】記録シート5のセットが完了すると、RAM 6 cの所定領域に格納された画像情報を順次読出し、該画像情報に従いキャリアモータドライバ6 f及びシート送りドライバ6 gによりキャリアモータ4 k及びシート送りモータ4 lを夫々駆動し、画像情報に応じたタイミングでヘッドドライバ6 eによりインクジェット記録ヘッド4 aを駆動して記録シート5にインクを吐出して記録を行う。

【0034】1ページ分の記録が終了するとシート送りモータ4 lを更に駆動して、シート送りローラ4 d及び排出ローラ4 fを、記録シート5が排出口4 jから排出されるまで駆動して記録シート5の排出を行う。

【0035】ここで画像情報が複数ページに及ぶ場合、または1ページ分の記録情報であっても同じ記録を複数枚必要とする場合には、1枚目の記録シート5の排出に引き続き、給送ローラ4 rを駆動して次の記録シートの給送を行い、全記録シートについて記録が終了するまで記録が行われる。

【0036】次に、給送カセット3の詳細な構成例を説明する。図6は、給送カセット3の構成例を示す斜視図である。同図において、3 aは給送トレイであり、分離斜面3 cを有する分離部材3 b、左ガイド3 d、シート受け部3 e等から構成されている。シート受け部3 eには、搭載された記録シート5を給送ローラ4 rに押圧するプレッシャプレート3 pが設けられている。3 hは、後述するように着脱が可能(図7参照)な後端ガイドであり、この例においては、A4サイズの記録シートを搭載したときに丁度記録シート5 aの後端がガイドされるように構成されている。B5サイズの記録シートを搭載するときは記録シート5 aを前詰めでセットし、またB4サイズの場合には、後端ガイド3 hを取り外して記録シート5 aをセットする。

【0037】右ガイド3 iは、積載する記録シート5のサイズに合わせて図示の2点鎖線に示すごとく記録シート5の幅方向にスライド動作することが可能な構成を有する。

【0038】後端ガイド3 hの下部には、図2に示した連続記録シート5 bを案内する案内通路3 sに連続記録シート5 bを挿入する挿入口が給送トレイ3の前方に開口するように構成されている。

【0039】図7は、シート後端ガイド3 hを取外した状態の給送カセット3の斜視図である。図示の如く、案

内通路3 sの開口部には給送カセット3に回転可能に取りつけられたガイドローラ3 tと案内面3 nが設けられている。また、給送カセット3には、給送ローラ4 rに対向する位置にプレッシャプレート3 pが設けられている。

【0040】給送カセット3に単票記録シート5 aを入れるには、まず給送トレイ3をキーボード1の下部より手前に引き出して記録シート5を積載し、その後キーボード1の下部に再び挿入する。

【0041】ロール状又はファンフォールド状の連続記録シート5 bに記録を行う場合には、シート後端ガイド3 hを取り外した状態(図示の状態)で記録シート5 bの先端を案内面3 nに添わせて案内通路3 sに挿入し、その先端が給紙トレイ部3 aの下部を通過し、図2に示す如く、送りローラ4 dとピンチローラ4 eのニップ部に達するまで押し進める。

【0042】この給紙カセット3に設けられた案内通路3 sを用いることにより、連続記録シートに記録を行う場合にも給送トレイ3 a上に積載されている記録シート5 aを取り除くことなく、また給送カセット3を着脱、交換することなく、また給送カセット3による給送の方向と異なる方向の連続記録シート専用の給送通路を設けることなく、ワードプロセッサの前面のキーボード1の下部より連続記録シート5 bを供給して記録を行うことが可能になる。

【0043】また、図6に示す如く、シート後端ガイド3 hを取り外さない状態においても連続記録シート5 bを案内通路3 sに挿入し、記録を行うことも可能である。

【0044】図8は、シート後端ガイドを取り外し、その代わりにロールシートを保持するロールシートホルダを装着した状態を示す図である。連続記録シートであるロールシート5 bは、ロールシートホルダ3 gに設けられた左右一対の軸3 mに回転自在に軸支される。そして、ロールシート5 bの先端は、案内通路3 sの開口部のガイドローラ3 tを介して案内通路3 sを経て記録装置4に案内され、そこで画像を記録される。

【0045】案内通路3 sが位置する高さは、例えば、ロールシート5 bの終端部(すなわち、ロールシート5 bが最小巻き半径になるとき)においても、ガイドローラ3 tによって巻き癖(カール)を抑制し得るように低い位置に設定することが望ましい。

【0046】上記の構成において、連続記録シート5 bの先端を前述のニップ部まで挿入した後、キーボード1の記録シートセットキー(不図示)を押すことにより、送りローラ4 dを回転させて記録装置4に記録シート5 bをセットし、記録を行うことができる状態になる。

【0047】ここで、連続記録シート5 bのセットに際し、「書式設定メニュー」の「用紙サイズ」の設定の欄を「連続シート」に設定するか(図4参照)、或いは

「印刷メニュー」の「用紙種類」の設定の欄を「連続シート」に設定し、前述の記録シートセットキーを押した場合には、給送ローラ4rを駆動せず、自動的に案内通路3sに挿入されている連続記録シート5bを記録装置4に給送する構成にすることが望ましい。

【0048】また、案内通路3sに記録シートを検知するシートセンサを設け、案内通路3sに連続記録シート5bが挿入されている場合には、給送トレイ3aに積載されている単票記録シート5aを給送しないよう制御しても良い。

【0049】また、上記の説明においては、案内通路3sを給送カセット3の給送トレイ3aの下部に設けたが、給送トレイ3aの下部または上部のワードプロセッサ本体に設けることも可能である。

【0050】以上のように、給送カセットの下部に記録シートの載置面と平行して案内通路を設けて連続記録シートを案内する構成にすることにより、小型で操作性の良い記録装置を実現することができる。

【0051】また、キーボードの下に、連続記録シートを使用可能な給送カセットを配することにより、多様な記録シートを使用可能にしつつ、小型化を実現することができる。

【0052】〔発明の第2の実施の形態〕本実施の形態は、上記の第1の実施の形態におけるロールシートホルダに関する他の形態を提供するものであり、言及しない部分に関しては第1の実施の形態と同様の構成を有する。図9は、本実施の形態に係る給送カセットの構成例を示す図である。同図において、31hは給送カセット31に移動可能に取付けられた可動シート後端ガイドであり、B4サイズの記録シートを積載するときには矢印A方向に2点鎖線に示す位置まで引き出して記録シート5aを積載する。

【0053】ロールシート5bを使用する場合には、B4サイズ同様に2点鎖線の位置まで可動シート後端ガイド31hを引き出し、左右1対のロールシートホルダ31gを軸31qを中心に矢印B方向に回転させる。更に左右1対の軸31mを軸31rを中心に矢印C方向に回転することにより、図8に示すロールシートホルダ3gと同様の機能を有するロールシートホルダを実現することができる。

【0054】本実施の形態においては、給送カセット3には、上記の実施の形態のような案内通路3sが設けられておらず、単票記録シート5aも連続記録シート5bも同一の給送経路を用い、連続シートの場合にも給送ローラ4rを用いて分離部3bを通過して記録部4に給送される。

【0055】このため、単票記録シート5aを積載したまま連続記録シート5bに記録を行うことはできないが、給送トレイを小型化すること、或いは積載シート容量を増加することが可能である。また、ロールシートホ

ルダを収容可能な構成であるため、操作性に優れている。

【0056】また、給送トレイの小型化、積載シート容量の増加を考慮しない場合は、給送カセットに第1の実施の形態における案内通路3sのような案内通路を給送トレイ3aの下部に設けても良い。

【0057】また、上記の例は、収納可能なロールシートホルダ31gを給送トレイ31に一体化して設けた例であるが、これは、例えばワードプロセッサ本体の前面（オペレータが操作する側）に設けても良い。

【0058】〔発明の第3の実施の形態〕本実施の形態は、給送カセットを交換することによって単票記録シート5aと、ロールシート5bの双方を使用可能な例を示すものであり、言及しない部分に関しては、第1の実施の形態と同様の構成を有する。図10は、本実施の形態に係る給送カセットであるロールシートホルダカセットの構成例を示す図である。同図において、32aはロールシート5bを分離部材32bを経由して記録装置部4に案内する給送トレイであり、左右に左ガイド32d、右ガイド32iが設けられてる。給送トレイ32aの前方には1対のロールシートホルダ部32gが給送トレイ32aの左右に設けられており、左右1対の軸32mにてロールシート5bを回転可能に保持される。

【0059】給送トレイ部32aとロールシートホルダ部32gの接合部にはガイドローラ32tが左右のガイド32d、32iに回転可能に設けられており、ロールシート5bから記録装置4に給送されるロールシート5bをスムーズに案内する。

【0060】ロールシート5bへの記録に際しては、先ず単票用の給送カセット（不図示）をワードプロセッサ下部より取り外す。続いてロールシートホルダカセット32のロールシートホルダ部32gの軸32mにロールシート5bをセットする。そして、ロールシート5bの先端をガイドローラ32tの下を通して分離部材32bの直前まで引き出した状態で記録装置に挿入する。

【0061】ロールシートホルダカセット32がワードプロセッサに装着されると給送トレイ部32aにセットされているロールシート5bの先端部に給送ローラ4rが当接し、記録指令とともに前記給送ローラ4rにより分離部32bを越して記録装置4に送られ記録が行われる。

【0062】本実施の形態においては、通常（単票用）の給送トレイの他に、上記の如き専用のロールシートホルダカセット32を必要とするが、ロールシートホルダカセット32にロールシート5bをセットする作業が容易であり、また、給送ローラ4rにより記録装置4にロールシート5bの送り込みを行うことが可能であるため、ロールシート5bのセットが容易である。

【0063】ここで、連続記録シートを使用している場合に、ワードプロセッサの記録シートの設定が単票シ

トのモードになっていると記録シートの排出に際し連続記録シートをシートが終了するまで排出してしまうという問題がある。

【0064】この問題は、例えば、単票用の給送カセットとロールシートホルダカセット32に、それらを識別するための識別子(カセット種類マーク)を設け、ワードプロセッサ本体に該識別子に基づいて給送カセットの種類を判別するセンサを設けることにより、ロールシートホルダカセット32を装着した際に自動的に連続記録シートを使用するモードに切り替える構成にすることによって回避することができる。

【0065】上記の第1～第3の実施の形態においては、インクジェット方式の記録装置を搭載したワードプロセッサについて説明したが、記録方式は、例えば、ワイヤードット方式や熱転写方式等の他の方式でも良く、また、記録装置の形態は、ワードプロセッサに内蔵した形態のみならず、例えば、パーソナルコンピュータに内蔵した形態や、ファクシミリやプリンタの形態等でも良い。

【0066】また、本発明は、例えば、ホストコンピュータ、インタフェース、プリンタ等の複数の機器から構成されるシステムに適用しても、ファクシミリ等の1つの機器からなる装置に適用しても良い。また、本発明はシステム或は装置にプログラムを供給することによって実施される場合にも適用できることは言うまでもない。この場合、本発明に係るプログラムを格納した記憶媒体が本発明を構成することになる。そして、該記憶媒体からそのプログラムをシステム或は装置に読み出すことによって、そのシステム或は装置が、予め定められた仕方で動作する。

【0067】

【発明の効果】以上説明したように本発明に拠れば、連続記録シートを使用可能な記録装置を小型化することができるという効果がある。

【0068】また、連続記録シートを使用可能な記録装置を内蔵した情報処理装置を小型化することができるという効果がある。

【0069】

【図面の簡単な説明】

【図1】記録装置を内蔵した情報処理装置の一例であるワードプロセッサの外観斜視図である。

【図2】第1の実施の形態に係る給送カセットの構成例を示す図である。

【図3】ワードプロセッサの構成例を示すブロック図である。

【図4】表示部に書式設定メニューを表示した例を示す図である。

【図5】表示部に印刷メニューを表示した例を示す図である。

【図6】第1の実施の形態に係る給送カセットの構成例

を示す斜視図である。

【図7】シート後端ガイドを取外した状態の給送カセットの斜視図である。

【図8】シート後端ガイドを取り外し、その代わりにロールシートを保持するロールシートホルダを装着した状態を示す図である。

【図9】第2の実施の形態に係る給送カセットの構成例を示す図である。

【図10】第3の実施の形態に係る給送カセットであるロールシートホルダカセットの構成例を示す図である。

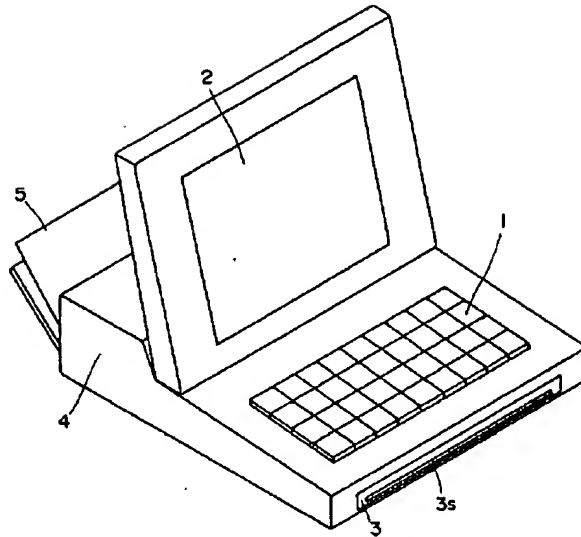
【符号の説明】

- 1 キーボード
- 2 表示部
- 3 給送カセット
- 3a 給送トレイ
- 3b 分離部材
- 3c 分離斜面
- 3d 左ガイド
- 3e シート受け部
- 3g ロールシートホルダ
- 3h シート後端ガイド
- 3i 右ガイド
- 3m ロールシート軸
- 3p プレッシュプレート
- 3s 案内通路
- 3t ガイドローラ
- 4 記録装置
- 4a インクジェット記録ヘッド
- 4b キャリッジ
- 4c ガイド軸
- 4d 記録シート送りローラ
- 4e ピンチローラ
- 4f 排紙ローラ
- 4g 拍車ローラ
- 4j 排出口
- 4n 記録ノズル
- 4r 給送ローラ
- 5 記録シート
- 5a 単票記録シート
- 5b 連続記録シート
- 31a 給送トレイ
- 31b 分離部材
- 31c 分離斜面
- 31d 左ガイド
- 31g ロールシートホルダ
- 31h 可動シート後端ガイド
- 31i 右ガイド
- 31m ロールシート軸
- 31p プレッシュプレート
- 32a 給送トレイ

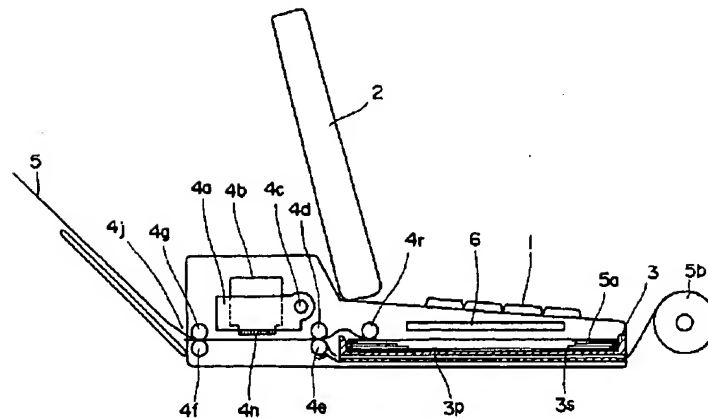
11
32b 分離部材
32c 分離斜面
32d 左ガイド

12
32g ロールシートホルダ
32i 右ガイド
32m ロールシート軸

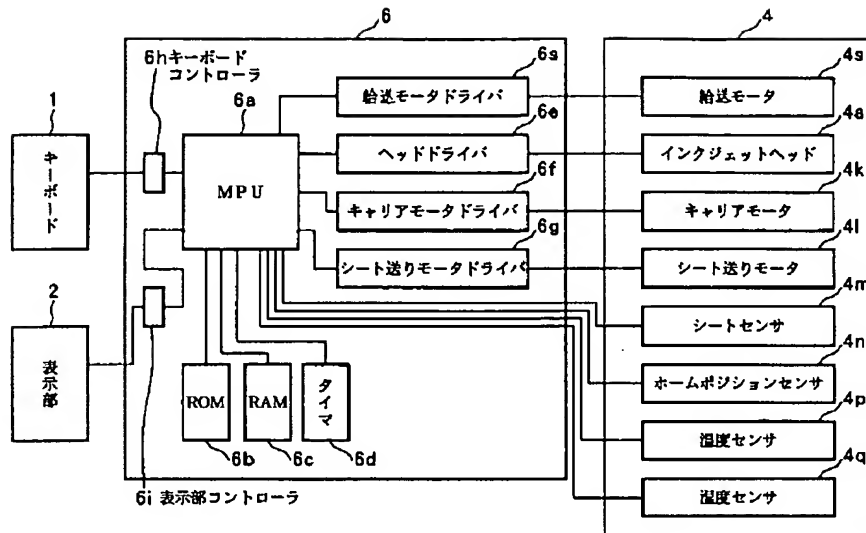
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

2

書式設定			
■ 用紙サイズ	B5縦	A1横	B4縦
	B5横	A4横	B4横
	葉書縦	葉書横	写真葉書縦
	原稿A4	原稿B4	フリー
	横	縦	連続シート
	横	縦	
	横	縦	
<input type="checkbox"/> 1行の文字数	[36] 桁	(最大値=56)	
<input type="checkbox"/> 1頁の行数	[29] 行	(最大値=72)	
<input type="checkbox"/> 縦横形式	横	縦	
<input type="checkbox"/> 抜とじ印刷	なし	あり	
<input type="checkbox"/> 欧文印刷	なし	10E+f	12E+f
<input type="checkbox"/> 文字サイズ	0	1	2
<input type="checkbox"/> 最大文字サイズ	7	10	12

16時7分

設定 詳細設定 ページ/ページ

【図5】

2

印刷

■ 印刷部数 [10] 部

☐ 部分印刷 [0] 頁分 (0=全頁印刷、1~99=カーソル行以降の印刷頁数分)

☐ 印刷速度 **標準** 高速

☐ 往復印刷 なし **あり**

☐ 印刷書体 **明体** 第2書体 (カードなし)

☐ コメント なし あり

☐ 半角中央詰 なし あり

☐ 定着モード なし あり

☐ 用紙縮小モード なし あり

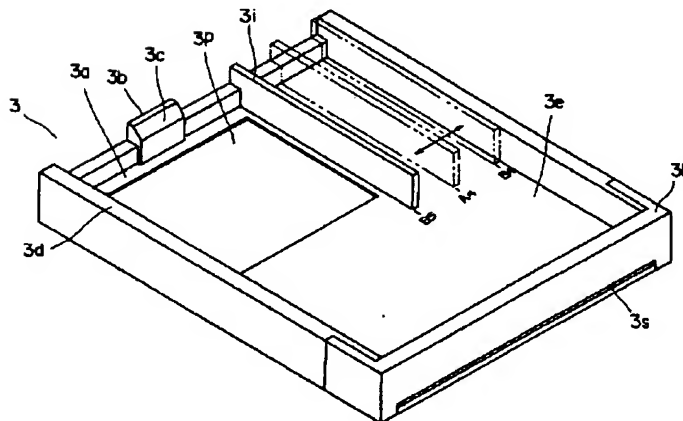
☐ 用紙種類 **標準紙** OHPシート 写真葉書 シール 連続シート

☐ 差込文書名 []

16時3分

印刷 **再開** **中断** **差込印刷** **レイアウト** **書式設定**

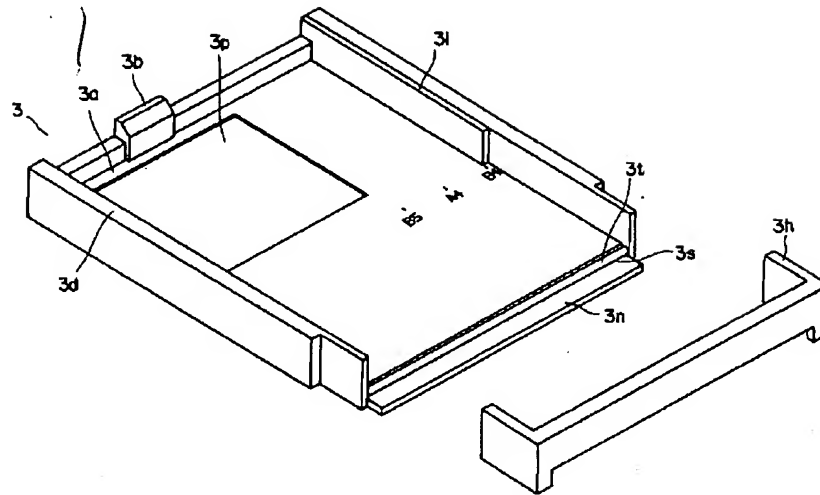
【図6】



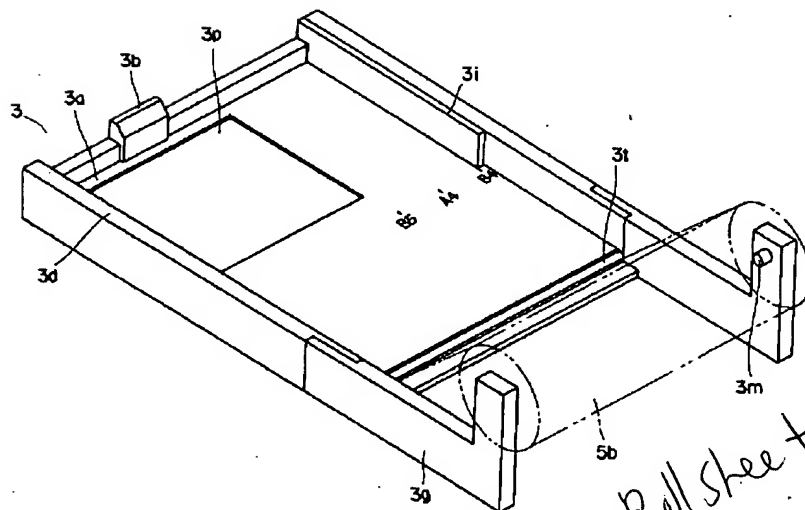
(10)

特開平9-86004

【図7】



【図8】



Roll Sheet Holder

Roll sheet

